

平成28年度 第2回半田市地域公共交通会議事録

開催日時	平成28年8月19日(金)	14時10分～16時10分
開催場所	半田市役所4階 庁議室	
会議次第	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>3. 報告事項</p> <p>(1)地域公共交通講演会について 資料1</p> <p>(2)先進地視察(豊橋市) 10月17日(月)11時～資料2</p> <p>4 議題</p> <p>(1)地域公共交通等調査業務委託事業(仕様書)について 【協議事項】</p> <p>資料3 ※スケジュール 【別紙1】</p> <p>①市民アンケートについて</p> <p>【参考】 白川町住民アンケート 【別紙2】</p> <p>②交通事業者ヒアリングについて</p> <p>③路線バス利用者アンケート調査について</p> <p>④住民懇談会について</p> <p>(2)路線バス運行経路の一部見直し等(案)について 【協議・報告事項】</p> <p>知多乗合(株) 資料4</p> <p>5 情報交換</p> <p>・「半田観光回遊バス」について 【別紙3】</p> <p>6 その他</p>	
出席委員 【欠席委員】	<p>(会長)</p> <p>半田市 副市長</p> <p>(委員)</p> <p>知多乗合株式会社取締役バス営業本部長</p> <p>【安全タクシー株式会社代表取締役】</p> <p>【愛知県タクシー協会知多支部長】</p> <p>【公益社団法人愛知県バス協会専務理事】</p>	

	<p>国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官 (代理：企画専門官)</p> <p>名鉄知多タクシー労働組合執行委員長</p> <p>愛知県知多建設事務所維持管理課長 (代理：課長補佐)</p> <p>【愛知県半田警察署交通課長】</p> <p>亀崎地区代表区長</p> <p>乙川地区代表区長</p> <p>半田地区代表区長</p> <p>成岩地区代表区長</p> <p>半田商工会議所福祉共済課長</p> <p>社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長</p> <p>半田市老人クラブ連合会会長</p> <p>特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長</p> <p>一般市民 (市民公募)</p> <p>名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授</p> <p>半田市総務部長</p> <p>半田市建設部長</p> <p>半田市市民経済部長</p> <p>半田市議会議員 (代理：市議会議員)</p> <p>名古屋鉄道株式会社中部支配人 (代理：中部支配人室営業総務課長)</p> <p>愛知県振興部交通対策課主幹 (オブザーバー)</p> <p>知多乗合株式会社企画部長</p> <p>※敬称略</p>
事務局	<p>防災監 齊藤清勝</p> <p>防災交通課 副主幹 間瀬恒幸、主事 石川修平</p>
傍聴者	7名

次 第	議事概要
2. あいさつ	<p>(会長あいさつ)</p> <p>大変お忙しいなか、また猛暑のなかご出席いただきありがとうございます。本日、第2回の会議を開催します。5月30日に第1回を開催した後、6月26日には、この会議の委員である加藤先生から市民の皆さまへご講演をいただきました。大勢の方にご参加いただき大変有意義でした。</p> <p>本日の会議では、次第のとおり報告事項、協議事項があります。なかでも今後のスケジュールについて委員にお示しし、ご審議いただきます。また、知多乗合(株)の路線バスの変更についての説明をお願いしています。</p>
3. 報告事項 (1) 地域公共交通講演会について	<p>(事務局)</p> <p>次第2ページをご覧ください。ご参加いただきました委員の方も何人かいますが改めて報告します。</p> <p>6月26日(日)10時から、半田市役所大会議室にて、委員の加藤博和准教授に「このまちに必要なおでかけの足をこのまちに住む皆さん自ら作り出すために」のサブタイトルで地域公共交通講演会を開催しました。</p> <p>日曜日にもかかわらず、市民や関係者の方々を始め80名の方々が参加しました。当日の様子は写真のとおり。また当日のパワーポイントの資料を本日参考に配布しました。</p> <p>講演会のアンケート集計表が3ページ以降にあります。年齢は50代、60代の方が多く、退職あるいはこれから定年退職を迎える年代の方の関心の高さがうかがえました。</p> <p>また、小学校区では、岩滑小学校区が7人ともっとも多く、次に半田小、亀崎小、乙川小学校区が6人の参加となっていますが、注目点として、市内13小学校区すべてから参加してい</p>

	<p>ることから、公共交通は市内全域の方が関心を持っていることがうかがえました。</p> <p>以下、時間の関係で端的に説明します。講演の満足度は大変満足、満足と答えた方が90%、主に利用する公共交通は鉄道が67%、路線バスの方は5%タクシーについては4%といった結果になりました。</p> <p>最後の質問の「話し合いへの参画」については、約60%の方が参加いただけるといった回答でした。</p> <p>講演会の感想につきましては、4ページになるが、「講演の内容がよく理解できた。公共交通やくらしの足を考えるきっかけとすることができた」と言ったご意見が多く寄せられました。</p> <p>公共交通の鉄道や路線バス、タクシーに関してのご意見等は5、6、7ページになりますが、時間の関係で省略しますので各自ご覧ください。</p> <p>(会長)</p> <p>講演に関する意見の中で、こういった講演会を複数回行ったらどうかといった意見をいただきました。機会があれば、こうした講演会を開きたい。</p>
<p>(2) 先進地視察（豊橋市）</p>	<p>第1回の公共交通会議でお伝えしたとおり、場所や日程は、事務局で調整させていただきました。</p> <p>事前に送付した資料では、市のバスの空き状況から10月3、6、17日の3日間を候補日としてあげていましたが、視察先の豊橋市の都合等により17日（月）としました。</p> <p>午前11時に半田市役所を出発し、途中、昼食をとりながら向かいますので、14時～16時までを視察の時間、半田市に戻るのは概ね17時30分頃になる予定です。</p> <p>改めて案内を送るので、その際に出欠を確認します。</p> <p>なお、視察先である豊橋市ですが、資料の8ページをご覧くださいと「地域公共交通活性化の基本方針として「地域にあわ</p>

せた地域公共交通」「使いたくなる地域公共交通」「まちの活力や魅力を高める地域公共交通」「連携・協働による地域公共交通」と定められ、それらに対する様々な取り組みはP 1 0～P 1 5に記載されています。

1 0 ページには「地域にあわせた地域公共交通」ということで、どのような過程を経て地域生活バス・タクシーの運行や路線を決めたのかなど、半田市でいう「地区路線」を検討する上で参考になります。

また、1 1 ページの「使いたくなる地域公共交通」として取り組んでいる、利用しやすいきっぷの設定や分かりやすい公共交通の情報提供などを始め、これからの半田市の地域公共交通を活性化させていく上でも参考になります。

このように、豊橋の地域公共交通は、まちづくりと一体となって進められていること、住民が主体となって運行している地域生活コミュニティバスなど、参考になるところが多いと考えています。

その他のページは、豊橋市の状況について参考に付けていますので、視察までにご覧いただければと思います。

(半田市観光協会事務局長)

豊橋市の受け入れ体制は、行政以外に民間事業者や市民などの参加はありますか。

(事務局)

現在調整中です。

(半田市観光協会事務局長)

民間事業者の方も参加してもらえるとよい。

(会長)

豊橋市と調整します。

<p>4. 議題</p> <p>(1) 地域公共交通等調査業務委託事業(仕様書)について</p> <p>【協議事項】</p>	<p>地域公共交通等調査業務委託事業（仕様書）について説明しますが、その前に、スケジュールを一部見直していますので説明します。別紙1が、見直し後のスケジュールになります。</p> <p>第1回地域公共交通会議において、新たな公共交通の策定に向けたスケジュールを承認いただき、その後、市では、6月議会において、スケジュールに沿った市民アンケートと事業者ヒアリングに係る予算を補正措置しました。</p> <p>そして、この業務を名古屋大学と受託研究契約を結びたいとして、現在準備を進めています。</p> <p>名古屋大学との協議において、平成29年度中に地域公共交通網形成計画及び再編実施計画（案）を策定するために、本年度中にできる限りの調査業務を進める必要があるとのアドバイスを受け、市民アンケート、交通事業者ヒアリングに加え、路線バス利用者アンケート調査、住民懇談会を行うものとして、スケジュールを改めています。</p> <p>次第20ページ、資料3をご覧ください。本日、特に議論いただきたい点は、仕様書の3業務内容のうち（1）市民アンケート調査、（2）交通事業者ヒアリング、（3）路線バス利用者アンケート調査（4）住民懇談会になります。</p> <p>22ページをご覧ください。</p> <p>業務内容の内①市民アンケートは、市民3000人を対象に郵送で行います。調査項目としては、①普段の生活の「おでかけ」について（おでかけの回数、目的、行先、移動手段）、②公共交通について（普段使う公共交通、使う頻度、路線バスの認知度、公共交通を使わない場合の理由、公共交通がどうなれば使うようになるのか、公共交通が利用しやすくなった場合に行きたい場所）、③公共交通のあり方（市の路線バス運行補助金について、市民1人当たりの負担額(約283円)をどう思うか、公共交通を使いやすいものにし、維持するために税金が一層投</p>
---	--

入されることについてどう思うか) といった項目になります。

委員の皆さんには、唐突な資料提供になりますが白川町の市民アンケート調査が名古屋大学協力のもと作成されていますので、本日、参考資料としてお配りしています。

当然、白川町は半田市と比べ自治体の規模や直面している状況も異なることは承知していますが、公共交通の市民アンケート調査の一つの実例としてお配りしています。本日、委員の皆さんのご意見をいただくなかで、半田市として求めたいアンケート項目を整理したいと考えています。

次に②交通事業者ヒアリングは、事業者の現状把握に加え、事業者側視点からの課題や問題点を調査整理します。

③路線バス利用者アンケート調査として、現に路線バスを利用されている方を対象に実際にバスに乗車しながら調査を行います。

「利用されている方の年齢層」「利用目的」「利用区間」「運賃」「利用する理由」「路線バスへの意見・要望」などについて調査します。

④住民懇談会は、市民アンケート調査だけでは、なかなか見えてこない課題や問題、あるいは、意見やニーズなどを集約します。

これまで、各中学校区単位で行う予定で計画していましたが、各地域が持っている課題、要望等は、中学校区単位では測れないものと思われるので、小学校区単位13か所で、話し合いや議論を進め、見える化していきたいと考えています。

非常にタイトなスケジュールとなっているが、今後、地域の皆さんにも理解、協力いただくなかで懇談会を進めたい。

(愛知県振興部交通対策課主幹)

市民アンケート3000人の抽出方法は決まっていますか。

(事務局)

無作為で抽出しますが、地域ごとの人数が均等になるように抽出する予定です。

(愛知県振興部交通対策課主幹)

年齢などは意識しませんか。

(事務局)

世帯主を対象としますので、年代別に抽出する予定はありません。

(半田市社会福祉協議会事務局長)

住民懇談会について、委員は地域の一参加者として参加すればよいですか。

(事務局)

一参加者としてお願いしたい。

(会長)

加藤先生に意見をいただきたい。本日の参考で付けた白川町のアンケートは、調査項目も多く、回答者が嫌がるのではないのでしょうか。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

白川町のアンケートは、町民全員に回答してもらうものです。郵送ではなく、自治会で配布し、自治会で回収しました。この地域は深刻なので、そのようにしています。半田は状況が違いますので、このシートより少ない項目になります。

世帯に対してアンケートをとるのか、個人を対象にするのかは、これから調整します。

今年度行いたい住民懇談会につきましては、各小学校区で10人程度集まってもらい実施したいものです。メンバーは老若男女、バスを使う人から全く使わない人など、様々な人を選んで実施したい。告知して、誰でも参加できるという形態ではないものにしたいと思います。専門用語では、グループインタビュー

ューと言っています。

グループインタビューは、アンケート調査で把握した各小学校区の課題で、もっと深堀したい点を2, 3絞って、その論点について1時間程度話し合いをするものです。

そうすると、この地域の課題について解決する方向性がつかめ、地域ごとに素案のようなものができます。次年度は、広く集め、自由に議論するというを考えています。

(市議会議員)

第1回の市民懇談会の以降のあり方を教えていただきたい。

(事務局)

平成28年度に市民アンケート、交通事業者ヒアリングなど、様々な調査業務及びそれら整理分析を行います。平成29年度は、公共交通のマスタープランとなる公共交通網形成計画を策定し、その後、実施計画となる公共交通再編実施計画を策定し、提示するなかで、住民懇談会において意見を聞くこととなります。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

第2回住民懇談会は行います。スケジュールの地区路線バスの欄が空白になっているが、各地区で必要な路線を独自に考えるため協議会のようなものを設けていただきたい。各地区でバス路線について考えてもらいたい。私も支援します。

(成岩地区代表区長)

加藤先生に伺いたい。グループインタビューで人を集めるときに、公共交通について分からない人が来ると意見がまとまらないと言ったと思いますが、この地域公共交通が、どれだけの人に浸透しているか疑問です。人を集める際には、市から区長に依頼すると思うが、どのように人選したらよいか分かりません。公共交通に関する知識のない人ばかりが集まるかもしれません。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

公共交通に関する知識がない人ばかりでも構いません。よく知っている人と全く知らない人がバランスよく参加してくれることが一番ですが、よく知っている人がいなければ、知らない人ばかりでもいいです。グループインタビューは調査ですので、現状の認識と、この地区での取り組みを提案し、どうするかを知ることが目的です。6月の講演会のように、多くの方に呼びかけて、その気になってもらうものではありません。公共交通が必要だという機運を高めることは、先ほど申し上げた協議会での目的にもなります。

(会長)

具体的な方法等については、区長さんに相談するのでお願いします。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

スケジュールが当初と比較すると早まっている感じがします。平成28年度の補助を受けようとする、平成27年度12月～1月頃に予備調査を行い意思確認しエントリーしていただきます。エントリーしたところから具体的な内容を提出いただき査定します。その後、平成28年4月に本申請をして交付決定を受けます。予算もないので、平成28年度の二次募集はありません。従って、29年度の事業についての補助を受けることは可能ですので、平成28年12月頃の予備調査にてエントリーしていただき、平成29年4月の交付申請につなげてもらいたい。スケジュールに計画推進事業の補助申請の記載もありますが、網形成計画を策定した後に、初めて申請できるものになります。また、再編実施計画についても、網形成計画が策定できていないと再編実施計画を策定する上での補助も受けられません。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

前回の会議でのスケジュールは、できる限り補助を受けるためのものでした。しかし、会議の中で、それでは遅すぎるとの意見がありましたので、市の単費で28年度中に行うといった判断がありました。29年の秋くらいに網形成計画は策定したいと考えています。その後、知多バスの主要路線の見直しを行うとともに、再編実施計画を策定していきます。それと前後したところで、機運の高まっている地域について、地区路線ができるとうい。その中で、国の支援を受けることができるものはお願いしていきたい。

28年度中にも網計画の策定は進めていきますが、年度中できあがりませんので、29年度になってからの作業については支援していただきたい。そして29年の秋に網計画ができれば、30年度の計画推進事業も進めていきます。それに合わせ、再編実施計画の策定も進めたいと考えています。

(事務局)

中部運輸局の支援を受けながら進めたいので、アドバイスをお願いします。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

各地域の機運が高まるようであれば、住民懇談会の予算や調査業務にかかる費用を国に支援していただきたい。

具体的に各地区で路線を走らせるような話になれば、その調査費についても支援してもらえるよう予算に組み込むとういと考えている。早めに話し合いなどを進めれば、その地域に早く地区路線バスが走る可能性があります。

(市民委員)

住民懇談会や市民アンケートも補助金の対象になりますか。

(事務局)

28年度に行うものは、補助申請の締め切りが過ぎているの

で受けられません。29年度については、調査業務や住民懇談会の費用も補助が受けられます。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

住民懇談会は、予算が不要だと思っています。コンサルに委託すれば、それなりに費用は必要だが、私が行けば委員なので費用もかかりません。私が言い出したのだから責任もって行います。調査方法など提案があればいただきたい。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

懇談会の費用だけでなく、計画を策定するためのものであれば、本日の協議会の費用についても補助対象になります。

(半田地区代表区長)

住民懇談会と協議会の流れが分かりにくい。地域として、どのように進めればよいでしょうか。区長会等で事務局に説明いただきたい。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

再度確認させてもらいますが、ここでいう住民懇談会と、各地区路線を考える協議会とは別物になります。この懇談会は調査のために行うもので、様々な方を選出していただきたい。協議会は、地域で有志を集めて進めていただくものです。

(事務局)

住民懇談会の表現が分かりにくくしていますので、今年度に行うものについては、グループインタビューとさせていただきます。

(会長)

本日配布したスケジュールに沿って、今後進めること及び本年度の事業について、仕様書のとおり進めることについて承認いただけますか。

(全員)

承認

<p>(2) 路線バス運行経路の一部見直し等(案)について</p> <p>【協議事項】</p>	<p>(知多乗合(株)取締役バス営業本部長)</p> <p>10月1日のダイヤ改正等について説明します。有脇線、亀崎線、上池線、花園線、鴉根線は現状の本数に変更はありません。ダイヤをパターン化し利用しやすいものとししました。</p> <p>知多半田駅前や市役所前など利用者の多いバス停について、主な発車時刻を00分や30分など分かりやすいものになるよう努めました。また、知多半田駅や市役所前などの最終の時刻を僅かだが伸ばしました。</p> <p>詳細な内容は、本日オブザーバーで出席している弊社の企画部長から説明させます。</p> <p>(知多乗合(株)企画部長)</p> <p>資料4、24ページをご覧ください。これは、有脇線、亀崎線、上池線の知多半田駅及び市役所前のバス停の改正前、改正後の平日の時刻表を例として示しています。</p> <p>改正前のダイヤは、利用者から非常に分かりにくく、その都度確認しないと安心して乗れないとの意見があります。改めてダイヤを見るとあるときは20分発、ある時は23分、21分となっているなど、これまで使いやすい路線としての工夫がなされてきませんでした。そういった点を解消することを目的にダイヤ改正を行い、主要なバス停において00分、30分発といった分かりやすいダイヤになるよう努めました。</p> <p>各バス停で最も乗降人員の多いバス停が知多半田駅を除くと市役所前になります。市役所から知多半田駅に向かうバスについても、ご覧のように非常に分かりにくい時間になっていましたが、今回の改正で、より分かりやすく、覚えやすいものになります。</p> <p>次に、25ページは運行経路を見直したいとする図ですが、改正前は、亀崎線、上池線、有脇線が近いところを運行するものの、3線が別のルートを運行しています。</p>
--	---

この経路を乙川栄町のバス停まで同じ経路にしたいとする改正案になります。

知多半田駅を出発して半田駅を経由するものしないもの、あるいは、港本町一丁目や中町を経由するもの、しないものなどがあると、市役所や乙川駅前などの発車時刻にバラつきが生じてしまいます。こういったことの見直し改善のために運行経路を見直すものです。

経路変更をする場合、運転距離が変わるために運賃が変わってきたり、バスが通らなくなるバス停ができることで、利用客の利便性を損なってしまわないかとの懸念がありますが、幸いなことに、運行距離が大きく変わらないので、運賃も上がりません。また、通らなくなるバス停も代替えとなるバス停が徒歩圏内、およそ300mの位置にあることなども確認できました。

続きまして、資料26ページは、鴉根線、花園線のダイヤ改正についても分かりやすいダイヤになるよう努めました。

27ページは、常滑線になります。利用の実態に合わせ、昼間時間帯の運転回数を見直しました。また、特急電車の到着時間からバスの発車時刻の時間に少しゆとりをつくり、余裕をもって乗り換えできるように配慮しました。

(会長)

ただいまの説明に対して、質問等はありませんか。

(市議会議員)

港本町一丁目と中町のバス停について、停まらなくなるということだが、周辺住民への説明はどのように行っていますか。

(知多乗合(株)企画部長)

まだ具体的には行っていませんが、ダイヤ改正する場合には時刻表を市報に折り込んでいますので、これから市と調整していきたい。また停留所には、ダイヤ改正する旨を張り出します。

(知多乗合(株)取締役バス営業本部長)

弊社で6、7月に行った乗降調査では、この2つのバス停から乗降した方は、一日1人に満たなかった結果となりました。

(事務局)

9月15日号の市報で、ダイヤ改正がある旨は掲載します。市報の折り込みについては予算的に困難ですので、各自治区に回覧していただけるよう調整しています。

(市議会議員)

文書や回覧だけでなく、バス停界隈に住んでいる方には、丁寧な情報提供をお願いしたい。

(会長)

周辺の自治区の区長等には相談します。

(事務局)

本日、ダイヤ改正について承認いただければ、早速、地域に情報提供します。

(半田地区代表区長)

市役所前発の10時、11時台が改正前と改正後と比較すると、2本から1本に減っています。市役所前からの乗客は半田病院の利用者も多いと思いますが、利用状況は把握していますか。

(知多乗合株式会社企画部長)

乗降調査の結果から、時間帯や経路によって特に乗客が多いといったものではありません。15時頃に利用の少しの波があるということは分かっています。

(半田地区代表区長)

9時から診察が始まり、終わるのが10時、11時頃なのではないかと思い、少し心配になりました。また、病院も新しく建て直すという話もあるので、不便になってしまうことが危惧されたため意見しました。

(特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長)

27ページの改正案から、空港行きの便が激減していますが、これも乗降調査に基づくものですか。経緯などを説明していただきたい。

(知多乗合株式会社企画部長)

現行のダイヤの内、知多半田駅7時発の空港行きが最も乗客が多いです。但し、常滑駅を經由して空港に向かう時点では3人や4人といった実態があります。

一方で8時発の便については、空港に通勤される方だと思われませんが、毎日8～10人に利用いただいているので残しました。その他の便については、路線全体では7人～10人といった利用はありますが、半田や常滑市内で乗り降りされる方で、空港まで行かれる方は少ない状況です。

(知多乗合(株)取締役バス営業本部長)

本会議において皆さんにご審議いただきたいところは、経路の付け替え及び乙川方面の路線すべてが半田駅を經由しますが、運賃は現行のままであるといった点になりますので、引き続き審議していただきたい。

(会長)

本件について、路線バス運行経路の一部見直し等(案)について、提案のとおり承認してよろしいですか。

(全員)

異議なし

(会長)

異議がないので、提案のとおり承認します。また、ダイヤ改正に関する周知について、知多乗合(株)と事務局と協議して行います。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

ここで効力が発生するのは、25ページの部分になります。

	<p>これを、本会議を経ないで行おうとすると、これを6か月前に運輸局に提出しなければなりません。また、愛知県のバス協議会に提出しなければなりません。今回の提案は軽微であることや愛知県の協議会より半田市で協議した方が地元のことなので良いため、本会議で諮っていただきました。</p> <p>空港に行かなくなった便は、常滑市民病院に行くようになったものになります。</p> <p>(会長)</p> <p>議題としては以上になります。</p>
5 情報交換	<p>続いて議題の5として情報交換とさせていただきますが、先に、市民経済部長から「半田の観光回遊バス」についてお話しさせていただきます。</p> <p>(市民経済部長)</p> <p>具体的に観光回遊バスを検討しているものではありません。7月22日に亀崎地区から地域振興、観光を活かしたまちづくりの観点から補助を得て、事業が展開できないかとの相談を受けました。国交省観光庁から「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」があり、2分の1の補助を受けられます。この活用の可否について、市長、亀崎地区の方と一緒に国交省から話を伺ってきました。</p> <p>ご承知のように、亀崎の潮干祭りがユネスコの世界文化遺産に指定されようとしています。これを契機に亀崎のまちづくりを進めたいとする地域の皆さんからの話があり、今後、事業を進めるなかで、この補助制度が活用できないかということで、国交省観光庁に相談に伺ったものです。この補助制度の中に観光地周遊バスの実証運行があり、亀崎地区から距離のある名鉄の駅をつなぐ手段として検討できないかということをお伺いしました。具体的には、何も決まっていません。地域の皆さんがまちづくりをすすめるなかで、市と一緒に協議をします。もう</p>

少し具体的になったところで、改めて観光庁に相談する予定です。

(社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長)

まだ具体的ではないということですが、これは半田市全体の周遊バスというよりも亀崎地区を周遊するバスですか。

(半田市市民経済部長)

亀崎地区を通りながら、市内の観光施設を周遊するバスを考えています。

(会長)

今後の展開によっては、半田だけでなく、隣接する自治体を周遊することも含めて考えていきます。

この件と地域公共交通会議との関係について、地域の公共交通と観光の周遊バスとでは性格が異なるため、他の場面での議論になると思います。必要に応じて、この会議で報告はさせていただきます、意見はいただきたいと考えています。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

路線バスに観光的要素を加えることなどは、現状として考えていませんか。

(会長)

来訪者に半田市の観光資源を伝えたいということが目的。短い間隔でバス停をおいて、地域の路線のようにすることは、少し性格が違うものと考えていますが、これからの議論のなかで、どうなっていくかが決まるものと考えています。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

現状では、JR亀崎駅を降りても何の表示もありません。また、現在も知多半田駅行は、亀崎の県社発のバスに乗ってもいけるので、そういった案内などが充実することなどに、この補助制度が使えるといいと思います。

今後、情報提供していただければ、様々な意見やアドバイス

ができると思います。

(会長)

この他、何か情報交換等がありますか。

(特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長)

ごんの秋まつりに合わせ、巡回バスを走らせる準備をしています。アイプラザ半田から半田運河蔵のまちを経由して、新美南吉記念館、半田赤レンガ建物を巡回します。この会議の皆さんにもご乗車いただき、半田市内を回っていただきご意見をいただけたらと思います。普段の路線バスにも時々乗っていただき、体感してもらい、この会議で様々な議論ができたらと思います。

(成岩地区代表区長)

観光は半田市の北側に集中しています。南側には観光地になるところがないので、2, 3か所つくることできないですか。ゼロからつくることは困難なので、今ある資源で見つけていただきたい。

(半田市市民経済部長)

市内の観光資源について、これからも発掘したいと思っています。ぜひ、地域の方からも提案していただきたい。

(成岩地区代表区長)

地域の住民は見慣れてしまっているので、なかなか気づくことができません。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

今回、亀崎地区を歩いて新たな発見がたくさんあった。街並みがよかったですし、あちこちの坂に名前がありました。歩くと、いろいろな発見があります。初めて訪れる人と、まちをよく知る人と一緒にまち歩きをすると、新たな発見があるのではないかと思います。

6 その他	<p>(事務局)</p> <p>次回の公共交通会議は、2月下旬から3月中旬頃に行う予定です。</p> <p>(会長)</p> <p>これをもって、会議を終了する。</p>
-------	---